

# 11月号 農山村ネットだより

発行元

とよた都市農山村交流ネットワーク

代表 山本 薫久

豊田市杉本町三斗成 1-3

旧杉本保育園を活用する会農山村交流・中継センター

tel・fax 0565-68-1113

農家さんは豊田市の子どもの成長のパートナー

## 旭地域会（五ヶ丘小学校 5年生 5班 16人）

台風の影響で、前2日間は中止。1日だけになった今年のセカンドスクール。いたどりの家に到着して、山の空気を吸った途端、目が輝く。流しそうめんをするのに、まずは自分の器と箸を作る。鋸で竹を切り、鉋で割り、小刀で形を整える。案外、女子が上手に鋸を使っていました。流しそうめんは大盛り上がり。全員がニコニコしながら楽しそうでした。（杉）

## 稲武地域会（五ヶ丘小学校 5年生 2班 7人）

子どもたちと本格石窯ピザ焼き体験をしました。まずは、ピザに入れる野菜の収穫。オクラがなっているのを初めて見て驚いた子も。それから、自分で作ったピザの味は格別のような感じでした。そして、忘れてならないのがヤギのアトリ。エサをあげたり、じゃれあったり、別れが名残おしく、最後まで遊んでいました。（高）

## 小原地域会（五ヶ丘小学校 5年生 3班 10人）

今年は、初めて小学生の受入をしてくださった岡田さんのご家庭も、父母娘さんが素晴らしい連携で準備くださり、稲刈り／野菜収穫／五平餅づくり／バーベキュー／からすみづくりと、限られた時間で沢山の山の手仕事を子ども達に教えてくださりました。ども達も「今度は泊まりに来たいです！」と別れを惜しんでいました。（都）

## 下山地域会（五ヶ丘東小学校 5年生 3班 11人）

田舎でつくる「ほんまもん」のソセージづくり。「個性的？」な作品ばかり。さっそく湯がいて試食。手づくりに感動。後片付けもみんなでテキパキと。キャンプ活動が役だったようです。古代米の見学のあと、地元農家さんと「もちつき」。初めての体験の子がほとんどでした。農家さんとわいわいとはしゃぎました。ほんとうに楽しそう。（市）

## 足助地域会（五ヶ丘東小学校 5年生 2班 6人）

最初は緊張気味。でも山林に入って巻きがらし間伐をしたら、もう元気いっぱい。足助の郷土食「ごへいもち」。「ネコ型ごへいもち」「メガネ型ごへいもち」とのびのびやっています。鈴木智さんのお庭や畑でおばあちゃんとミニトマトを収穫。トマトきらいだった子も口にして「おいしい！」。担任の先生も「こどもが生き生きしてきた。ほんとうに農山村体験のパワーを感じます。」と感動的な感想。（山）

農山村を愛し誇りに思う「心」、豊田市の未来を担う子ども達の成長を願う「心」がセカンドスクールを支えています。

## 10月11日飛騨白川へ会員研修バスツアー 24人参加

ごえん農園（服部さん）では窒素肥料なし、きのこ菌床栽培の廃棄土を投入し健康な葉物野菜、根菜、エゴマ、お米などと、エゴマ油など加工品もつくって農業しています。お家もご自分たちでつくられたそうです。すばらしい。服部さんのところでは研修生も受け入れ、就農の拠点にもなっています。20年以上前からのIターン就農の試行錯誤でたどり着かれた成果ですし、地域への貢献でもあります。頭が下がります。

黒川地区では、地元の有機農業グループの西尾さんから、地域・農山村の再生の取組を聞かせていただきました。地元の農業者が集い、語り合い、学んですすめてきた有機農業。そして街から就農を志す若者を受入、仲間として接している清々しい姿・心意気に感動です。そんな若い仲間のひとり（塩月さん）が取り組んでいる「ストロベール・ハウス」（断熱壁に藁をつかう）の建設現場も訪問。

あたらしい試みも西尾さんたち地元の方々の支持があって、のびのびやっているのだと思いました。地元と他所者が手をつないでいる。だから、地域・農山村が再生されているのだなーと実感しました。

今回も下山地域会の柴田さんにバスを出していただきました。ありがとうございました。

## 交流市民の会

10月9日、秋晴れの日曜日。

枝豆用の大豆（獅子王）の収穫をしました。6月末に種まきをしてから4ヶ月。大豆作りのラストに向けた一つの区切りとなる作業でもあったように思えます。

朝の8:00。まだ青々と葉を広げる獅子王を根っこごと、どんどん抜いていきます。莢をつけた獅子王を畑横の音楽教室の前へ小山のように積み上げ、西川さん、石原さんと3人で1本1本から枝豆に適した莢だけを摘み取り、大きなビニールシートの上へと集めていきました。葉に隠れるように幹近くにびっしりと付き、実った莢。摘み取っていく中で、虫に食べられたものや腐ってしまったものも多々ありましたが、こうして育ってくれた大豆たちを見ていると《出来る限り枝豆として収穫してあげたい》そんな気持ちがむくむくと湧いてきます。

そして作業から2時間経ち、作業が終わった10:00頃にはビニールの袋4つ分もの枝豆を収穫することができました。「自分たちで育てて収穫した大豆を使って、味噌を仕込んでみたい」そんな安易な思いから始まった大豆作りですが、稲垣すみ子さんのアドバイスと多大なご協力、また忙しい中大豆作りを手伝ってくれた仲間たち。そしてきっと一番は、大豆の持つ大きな生命力に随分と助けられてここまで来たのだと思います。

さあ！まだまだこれから。最後に待っているのはフクユタカの収穫です。

大豆に支えてもらってのラストスパート。なんとかしっかきりゴールしたいと思っています。

## 足助地区

10月9日

新盛里山耕流塾〔市民農園〕でリースづくりをしました。

材料をそれぞれ持ち寄り くらし体験館すげの里に10名が集まり思い思いのリースが出来ました。



半日ほどで27個のリースが完成しました。

このリースは10月23日の山野草展と30日の足助ふれあいまつりにバザー販売しましたがなかなか好評で20個あまりが売れました、

リースづくりも楽しい集まりでしたが これからも「すげの里」でいろいろの体験や集いをしたいと思います。

皆さんも是非「すげの里」の有効活用をしていきましょう、お待ちしております。

薪ストーブを囲み落ち着いた雰囲気での宿泊体験もいいですよ。

## 下山地区

### 9月25日(日) 秋の山里大収穫祭 in 香恋の里

台風通過後の秋晴れの中「秋の山里大収穫祭 in 香恋の里」を手づくり工房山遊里と周辺の田んぼ・畑で行いました。

今回初のこころみとして「おいしい下山の朝ごはん」と題して、「新米ミネアサヒの炊きたてごはん」「しもやま素材のおみそ汁」「しもやまのおばちゃんの漬物5色盛り」「岩津屋のできたてくみ出し豆腐」「山遊里のベーコン入りスクランブルエッグ」と盛りだくさんの内容で300円とリーズナブルな値段で提供。販売開始前より行列ができ、瞬く間に完売しました。朝早くから準備に追われたスタッフも一安心しました。

稲刈り体験の田んぼの一部に前日イノシシが入ったり、会場の100メートルほど手前の道路が崩れてしまったり(9/22(木)のセカンドスクールを終えたバスが通過してから4時間後の出来事だと思うと「ゾッ」とします。)と予期せぬ事が多かった今回でしたが、子どもたちもマスクかみではしゃいだり、大きなサツマイモを掘って大喜びしたりと、何とか無事に終わることができました。

良かった、良かった。



## 稲武地区

### ふれあいまつり・中馬太鼓ジャンボリー・収穫祭のお知らせ!

11月6日(日)の稲武DE婚活パーティは大盛況!稲武の自然と人の優しさにふれて、稲武ファンが増えたようです。

さて、稲武では交流館ができてはじめてのふれあいまつりが11月20日(日)に稲武交流館一帯で行われます。稲武にとっては初めてのことでみんな準備に大わらわ。各種バザーや芸能発表が行われます。芸能発表のトリは2時15分からの狂言「しびり」。見に来てください!

11月27日(日)は稲武中学校体育館で午後1時より、中馬太鼓ジャンボリーが開催されます。中馬街道沿いの7団体が出演!太鼓のパワー炸裂です。迫力満点で楽しいこと間違いなし!

で、ついでに12月3、4日(土日)は山里Cyafeの収穫祭、もちつきにクリスマスリース、正月飾りを作ったりと、盛りだくさんの2日間です。こちらもよろしくお祈りします!

問合せ先 ふれあいまつり 稲武交流館 0565-83-1007

中馬太鼓ジャンボリー、山里Cyafe 収穫祭 とともに0565-83-3003



昨年の中馬太鼓ジャンボリーの様子

## 旭地区

### 都市住民がお祭りに参加 楽しい交流ができました

10月9日は、豊田市太田町の秋の例大祭。祭りでは、祭神が一旦社殿から神輿に安置される。御魂移しという。その後、氏子が案内、祓塩などの配役を持ちながら、参詣者と共に行列をつくり、神輿を担いで、社殿から外に出て境内を3回廻る。渡行という。最終列には、余興団による打ち囃し隊が続く。渡行が終わると、再び社殿に戻り、神事が行われる。太田町の秋の祭りはこのように行われている。過疎化の影響で年々人も減ってきた。しかし、今年は例年ない賑やかさを取り戻した。都市との交流を進め、春から米作りをしてきたボーイスカウト豊田第5団の皆さん32名が参加して下さったからだ。

神事前には、子どもたちを対象に宝探しが行われ、境内には元気な子どもたちの声が響き渡る。渡行も玉串奉典も氏子と同じように参加し、豊作と安全を祈願した。神事が終わると、太田区民館に場所を移し、大祭の祝宴（懇親会）が行われ、ご馳走を囲んで太田区民全員との交流がなされた。ストラックアウト、輪投げ、風船つりなどのゲームに興じる子どもたち。大人たちも子どもに引き込まれ一緒に遊ぶ。締めくくりは、参加者全員によるビンゴゲーム。賞品をめざして全員が一喜一憂する。「ビンゴ」の声とともに賞品を手にしたボーイの子どもたちの笑顔が印象的だった。最後に、今日のお礼だと言って、ボーイスカウトの子どもたちが「ふるさと」の大合唱を披露してくれた。一生懸命に歌う子どもたち、真剣に聞き入る太田町民の姿に「まち」と「むら」がしっかりつながったという思いがした。

「子どもの声が聞こえるって、やっぱりいいなあ。」 久しぶりに賑やかさを取り戻したお祭りに感激ひとしおだった。



## 小原地区

今、小原は四季桜の花でいっぱいです。見に来る方も年々増えています。地域経済の活性化につながるよう関係者の皆で努力と工夫を重ねた結果です。

グリーンツーリズムの仲間も味噌、コンニャク、漬け物などを出品し、頑張っています。

この10月、昨年に続き二回目の小原商工会主催の里山合コンが西村農園でありました。宿泊にもかかわらず、沢山の方にご参加いただき、楽しい交流がありました。

野菜の収穫、豆腐、コンニャク作りなど、協力して夕食を仕上げたのも良かったです。

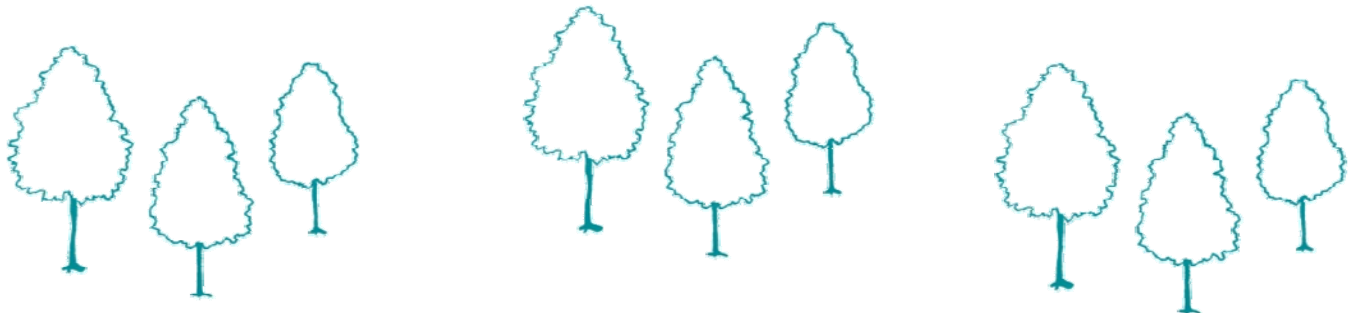
若大将たちのハマチの刺身作りの包丁さばきも女性陣から大好評。「やってみるかい？」と優しく指導する場面もあり、これからも同窓会を重ねて、カップル誕生を応援したいと思いました。地域の垣根を越えてネットワークで婚活サミットや、里山合宿をやってみたらどうでしょう？

稲刈りも終わり、今豊田の農山村では、メッシュ張りが行われています。一集落で数kmも設置せねばならず、みなさん、お疲れのご様子です。山側からそれを見ると、まるで人間が檻の中にいるみたいでした。

それでも、農山村の人々は逞しく、元気です。

11月12日（土）からは「旭木の駅プロジェクト」がまた始まります。

山が元気に、旭が元気に を合言葉に、小さな積み重ねで頑張っていこうと思っています。主役は地域の人たちです。



とよた都市農山村交流ネットワークでは会員を募集しています。

農林業体験希望者を受け入れてもいいかなあ。花木や昆虫のことなら聞いて！

農業はダメだけど料理は自信があるわ。農家で泊めてあげるよ。炭焼きならできるんだけど…。  
などなど、体験の受入れをしていただける方、お手伝いをしていただける方はご連絡下さい。

都市部の方でもOKです。いろいろな協力をお願いします。皆で一緒に楽しみましょう

とよた都市農山村交流ネットワーク

〒444-2816 豊田市杉本町三斗成 1-3

tel・fax 0565-68-1113 mail:nosanson@hm10.aitai.ne.jp